

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

#### 1. 対象 3年生

小説文に対して苦手意識をもっている生徒が多い。本文から理由などを探すことはできるが、そこから何を登場人物は思っているのか、考えているのか書くことや、読んでみて思ったことを自分の言葉でまとめることが苦手である。今回は、批評する活動を通して、本文を根拠に生徒が自分の言葉で批評する。この経験を通して、根拠を持って自分の考えを書くことへのスキルアップを図りたい。

#### 2. 単元名 「故郷」（全6時間）

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。【(2)イ】
思考力, 判断力, 表現力等	文章を批判的に読みながら、文章に表れているものも見方や考え方について考えることができる。【C(1)イ】
学びに向かう力, 人間性等	粘り強く文章を批判的に読み、今までの学習を生かして小説を批評し、自分の考えをまとめようとしている。

#### 4. 本時の目標

文章を批判的に読みながら、文章に表れているものも見方や考え方について考えることができる。  
(5/6)

#### 5. 授業展開【本時・単元】

##### 解決したい課題や問い

「故郷の批評ポイントは、どこだろう？」

「批評文を書くために必要なことは何か？」について単元全体を通して考える。

本単元では本文を読む際、故郷について、自分の考えをもちながら読み進める。

故郷を読み、本文の共感できない点・共感できる点など、理由を含めながら探し、単元の最後には故郷について考えたことを自分の言葉でまとめる。

##### 考えるための材料

・教科書に掲載されている「故郷（魯迅）」の教材を使用する。

→中国の身分格差について理解させる。

→物語の内容をどうおさえるか。

→文章を批判的に見るとはどういうことか、理解する。

・必要に応じてタブレット型端末で検索を行い、時代背景について理解しながら進める。

##### 想定される活動

単元の最後には批評文を書く活動を設定する。本時では、前時までに物語の大きな流れを整理している。批評文を書くために、本文に対して批評できる場面を探し、それに対する理由を具体的に説明する活動を行う。ポイントや説明を行う上で、人物の生き方と描かれ方、時代や社会背景、構成と展開、表現の効果、情景描写に注目しながら考える。

考えることが難しい生徒には、本文に対してどのように思ったか素直な印象を書かせたり、対話の中で引き出させ、そこをきっかけに書けるようにさせたい。

中国の辛亥革命時期の時代背景のため、時代を理解することも必要となる。そのために、対話の中や、タブレット型端末の検索機能を使用しながら、時代背景を理解しながら進めていく。

## 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

本時での対話と思考

①席が近くの人と対話

批評文とはどのような文章か、確認を行う。

②批評できる部分はどこか、どのポイントで批評文を書くか検討する。

席移動自由で対話できるようにする。

③個人活動で批評文を書く

この後に対話活動を設定するが、各自、何ができて何に困っているか把握した状態で話し合いできるようにする。

④批評文を書く際に困っていることの相談やアドバイスを行う。

自由形式の対話活動を行い、相談をする中で各自批評文を完成させる。

⑤批評文を完成させる。

## 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・ヤンおばさんは見た目だけではなく、盗みをしてしまうほどに心も変わってしまったことがわかる。その場面によってその時代の悪い環境をより強調できていて、その悪い環境のせいで人は悪い方へとも変わってしまうのだとわかるからだ。身分格差があり、生活的や経済的に貧しくなっているこの場面のヤンおばさんから経済状況や周りの環境によって人が変わってしまうことがわかりやすいと思う。
- ・ルントウの場面で、身分の差や長年の変化を気にしない上の立場にいる「私」と、それらを気にし、以前とは違った態度で接するルントウが対比として描かれている。月日や周りの環境がいかにルントウの内面を変化させたか、そして「私」の英雄が失われていく様がよく表れており、魯迅の思い描く道、そして希望とはどのようなものが示されていて良いと思った。
- ・「私」はルントウやヤンおばさんの姿から「時代が変われば人々は身分の差などをきっかけに隔絶してしまう」ことを悟りました。それは本文中の「むだの積み重ねで…」というところからもわかります。しかし、最後の一文を読んで、その考え方が変わったと共に、魯迅がこの物語を通して読者に何を伝えたいのかを理解することができました。この部分から、新しい世界を求める「私」と同じ志を持つ人が増えれば、きっと実現できるという考え方がわかります。「時間とともに人は変わってしまう」というのは魯迅が実感した事実ですが、そのような身分や立場の違いを越えて人々が協力すれば、誰もが心を通い合わせる新しい世界を実現できるというメッセージが伝わってくるのです。魯迅の考え方の変化や希望を、短い言葉で伝えているこの部分は、とても大切に評価すべきものであると思います。